

ニュースリリース

2004年8月5日

オムロン株式会社
オムロンソフトウェア株式会社

食肉豚の個体管理用ICタグを開発

～ 食肉豚の履歴管理システム事業に参入～

オムロン株式会社(本社:京都市下京区、代表取締役社長:作田 久男)は、この度豚個体のトレーサビリティ(生産履歴管理)実現のための、生体管理用のICタグを開発しました。今後、オムロンソフトウェア株式会社(本社:京都市下京区、代表取締役社長:館林 浩)は、当ICタグを用いた畜産農家や畜産組合向けの食肉豚の履歴管理システムを2004年12月末までに開発し、当事業に参入します。

国産牛肉では、生産・流通の過程をたどることを義務付けた牛肉履歴管理法が昨年未から施行されていますが、豚肉に関しても本年の7月25日に生産情報公表豚肉JAS規格が施行されました。

オムロンは、実際に食肉豚の生育環境から個体管理を行うためには、従来の手書きやバーコードではなく、非接触でデータ交信ができ、かつデータを何度も書き換えることのできるRFID技術が最適と判断し、生体管理用のICタグを開発しました。オムロンソフトウェアでは、飼育中に食肉用の豚個体へ与えた飼料や投薬に関する情報などを管理するための、当ICタグを用いた食肉豚の履歴管理システムを開発していきます。生まれたばかりの豚の耳にICタグを取り付けることで、豚個体識別によるトレーサビリティだけでなく、肥育管理にも活かすことができるようになります。

従来、食肉豚の生産履歴は畜産農家毎にロット管理が主流で、個体での管理は困難な状況で個々の豚の病歴、与えた飼料、投薬情報を正確に消費者に提供することが不可能でした。今回のICタグを用いたシステムにより、個体管理が実現でき消費者へより確かな安全を伝えていくことができるものとなります。

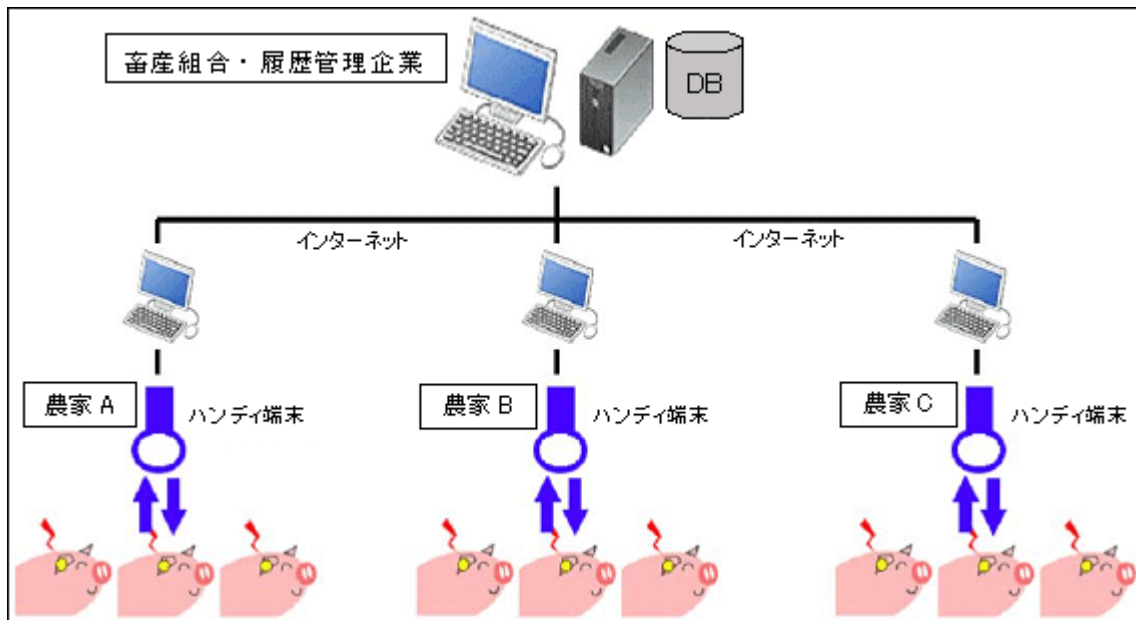
システムの特長

1. 豚の耳に取り付けるICタグは、オムロンが開発したもので、将来のシステムで消費流通までの拡張を考慮して、ISO15693規格に準拠した交信周波数13.56MHzを採用しています。
2. 絶えず動いている豚の個体識別には、無線LAN対応のハンディ端末機器を使用し、操作性を高くしているのが特長です。屋外でも端末ひとつで利用できるため、動き回る豚でも簡単に読み取ることが可能です。
3. データベース管理サーバと各農家のパソコン端末を接続し、インターネットを介して生産情報を一括管理することができます。

実証実験の実施

2004年5月、豊橋飼料株式会社(本社:愛知県豊橋市、代表取締役社長 石黒達士)、ならびにアドバンスフードテック(本社:愛知県豊橋市、代表取締役社長 鈴木周一)のご協力を得て、生育されている豚の耳にICタグを実際に取り付けた実証実験を行いました。この実証実験では、農家の方々や食肉流通センターでの運用を検証することを目的とし、ICタグを取り付けた豚全頭で確認しています。その結果、豚は好奇心が強く、耳についているタグに噛みつきタグが破壊されるという課題を確認しましたので、オムロンは、より堅牢なICタグを開発しました。引き続き上記2社のご協力を得て、フィールドテストを行い、食豚の履歴管理システムを開発していきます。

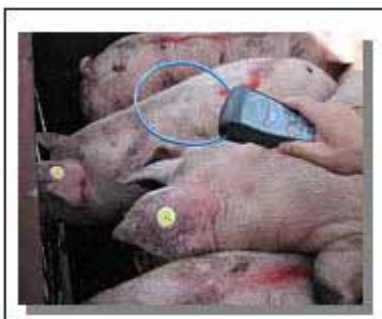
なお、豊橋飼料株式会社では個体でのトレーサビリティの徹底を図るため、豊橋飼料オリジナルブランド豚「黒六白」、「秀麗」(いずれも豊橋飼料株式会社の商標)を含む、飼育全頭数へのICタグの導入を予定されています。



豚個体管理用ICタグ



データ読み取り作業(実証実験より)



今回開発したICタグの仕様

交信周波数	13.56MHz
準拠したプロトコル	ISO18000-3、ISO15693
使用チップ	Philips製 I·Code SLI
形状	円形、中央部穴、樹脂封入
サイズ	直径:39mm、厚さ:2mm

JAS規格に基づいた管理項目

出生年月日、管理者(豚の所有者)、管理者氏名・住所、飼育施設住所、と殺年月日、豚の管理者の連絡先、と畜者の情報、給仕した飼料の情報、投薬情報更に管理項目は追加できます。

【詳細お問い合わせ先】

オムロン株式会社 事業開発本部 企画室 広報担当 勝野 正

TEL : (03) 5435-2004 FAX : (03) 5435-2025

オムロンソフトウェア株式会社 経営企画部 広報担当 出海(いずみ) 聡

TEL : (075) 352-7206 FAX : (075) 352-7210